

【資料3-5】

平成28年度 第四回 住みよいまちづくり部会報告

平成28年11月28日（月）14:00～16:00

さいわい福祉センター 会議室

1 市報コラムについて

市報11月1日号、12月1日号（コラム休み）、1月7日号

問い合わせはほとんど無い、コラム浸透しているのでは？

【後藤課長】秘書広報担当課より、珍しい取り組みなので保存するか（HPに載せるか）問い合わせがあった。記述者の名前が入っているので個人情報との兼ね合いあり年度内に市で調整する。

【委員】やまゆり園事件があり、共生の目的としてよいこと。

2 市民への啓発・周知活動（ちらし・ポスター）について

11月25日号に折り込み

【委員】公共機関にポスターを貼る。駅（西口）：1か月期限

【障害福祉課】パンフレット配布の計画は障害者週間の取り組みとして懸案事項であったが、今年度広報に折り込むことができた。

【委員】学校にも貼るとよい。

【委員】自立支援協議会本会議でも話していきたい。

3 地域防災計画について

市防災計画について

障害のある人の防災対策を考えるために、市はどのように考えているか

災害：①地震（福島 鳥取）

②台風 川近くの方不安、東久留米の川は溢れることはないが、内水（住宅地の中床下浸水）の可能性もある。9号線、野火止、久留米中学校の角は水が出る（住宅地が低い所に水溜まり）

③原子力災害

④テロ災害等

◇市の防災対策 災害対策基本法（H26年4月改正）

① 被害最小化（減災）

② 自発的な防災活動

例えば：市役所職員600人、地震の時職員が集まることのできるよう工夫している。

障害のある人を支援する人も被災する。

③ 絶えず改善

④ 生命及び身体保護を最優先

- ⑤ 被災者擁護
- ⑥ 速やかな復興

◇地域防災計画の目的

被害想定通り起こるとは限らない。

多摩直下型想定：冬 夕方 18 時 風速 8 m/秒 マグニチュード 7. 3 高尾山奥

小金井街道以東⇒震度 6 弱 小金井街道以西⇒震度 6 強

被害想定：負傷 680 人 重傷 74 人 避難人口 22, 450 人 (5 人に 1 人) 他の地域へ 7, 800 人

倒壊 719 棟 焼失 768 棟 帰宅困難者 16, 721 人 自立脱出困難 233 人

急傾斜地 11 か所 震災廃棄物？

基本は自助⇒共助⇒公助の順番

第 1：自らの命は自らが守る「自助」

第 2：自分たちの街は自分たちで守る「共助」⇒ここを大事にしている、この仕組み作り

例えば：阪神大震災は近所同士で助け合ったと聞いている。

日頃の付き合い、顔見知りになっておくことが大切。

◇平常時

防災の向上 持ち出し品の準備 足りなくなる物：水とトイレ (3 日分)

トイレ：エコノミー症候群 (水を摂らないことが原因)

なぜ？水分を摂らないのか？⇒トイレ汚い⇒きれいにする

地域コミュニティー 34 防災組織あり

◇防災対策本部 (市長が本部長)

消防 警察 自衛団・・・

震度 5 以上：全ての職員が出ていくことになっている。初期班 150 人弱 消防団 10 分団 (224 人)

・夕焼け小焼け 夕方 4 時 30 分は、行政防災無線を使っている。震度 5 弱で避難指示放送、現在デジタル化工事を行っている。

・FM局有用案あり、これから。

・電話 4 7 2 - 1 1 1 7 で聞くことができる。

・メール・ツイッター登録できる。

◇物流

備蓄対策、食料及び生活必需品用意。水は自分で貯める、防災用井戸、給水拠点 (南沢・前沢)

防災倉庫 (8 か所)、各学校備蓄あるが偏っている (管理しにくい)、

◇各種応援協力

医療、輸送、動物救護活動など (動物一緒避難OK)

二次避難所 (個別なニーズある人：障害・高齢・・・)、本来の利用者と避難者二重構造になる。

◇避難行動要援護者 (災害時要援護者)

障害 手帳で一定程度ピックアップしている 3, 000 人

知的 愛の手帳 1 ~ 3 度 名簿作成している

◇避難所をどう運営するか？

◇防災マップの確認

—質問—

【委員】一般の人の避難はわかったが、聴覚に障害のある人は情報が入らない、職員も足りないとのことなのでどれだけ情報がもらえるか心配。拡声器は音声だけ、視覚で情報を得るので書いて貼るとよい。

【防災】そこには地域の人も居る、耳・目 歩行不自由な方も、様々な条件をクリアすることは市役所だけではできない、地域にどんな人が住んでいるのかも含めて日頃から訓練をしてほしい。

【委員】例えばバンダナを付ける（耳が聞こえない・手話ができるなど）とか目印になるものがあるとよい。市でバンダナのような物を作ってもらえないか。

【防災】不自由さを明確にすること大切、災害時は皆パニック状態で集まる、地域のさまざまな活動を通してそれぞれの不自由さを日頃から話してほしい。訓練が進んでいるところでは、本人が納得したうえでシールを活用しているところもある。

【委員】コミュニケーションを取ることが難しいので日頃の付き合いがなかなかできない。

【防災】外国人についても課題、手伝える人が何人居るか？在宅診療、オストメイト、酸素の方についても。

【委員】バンダナ作ってもらえるのはどこに相談したらよいか？

【防災】共助なので必要であればモデル地域として取り組む方法もある。公の仕組みの中ではない。

【委員】ヘルプカードの活用はできないか。

【防災】地域の人たちと一定のルールで行っていくことができればよい。形あるものにしていきたい。皆さんの意見を関係づけることができればよいと考えている。

【委員】情報については？

【防災】ツイッターかHPに載せようという動きがある。

【障害福祉課】今後もこのような機会を作ることは可能か？

【防災】可能である。バリアフリーの発想と同様に考えることが大切と考えている。

#### 4 その他

池田委員は11月末で退任

防災キャラバン 12月4日開催 災害トイレを組み立ててみよう